

<産婦人科>

一般（教育）目標

産婦人科領域の腫瘍の治療、周産期医療、生殖医療を網羅的に経験することにより、産婦人科医師として必要な各領域の疾患・病態に対する理解を深め、同時に頻度の高い疾患については、基本的な臨床的管理が行えることを目標とする

（具体的）行動目標

(1) 基本姿勢

- (ア) 女性生殖器の解剖の特徴、および月経周期の調節機序を理解する
- (イ) 女性のライフサイクルでの身体の変化に対する理解を深める
- (ウ) 代表的な婦人科疾患の病態について理解する
- (エ) 妊娠・分娩・産褥の生理と病態についての理解を深める

(2) 診察法・検査・手技

- (ア) 婦人科疾患の病態の把握ができる病歴聴取を心がける
- (イ) 上級医の指導のもとで女性生殖器の視診・触診を行い、疾患が存在する可能性を判別できる
- (ウ) 各種の画像診断の疾患ごとの所見を理解し、診断を導くことができる
- (エ) 代表的な婦人科疾患の検査計画を立てることができる
- (オ) 基本的な手術の術式を理解し、助手を務めることができる
- (カ) 上級医の指導のもとで、妊産褥婦の外診・内診・経腹超音波検査・胎児心拍モニタリングができる

(3) 症状・病態への対応

- (ア) 女性生殖器についての理学的所見や検体検査・画像診断の結果を総合して、鑑別診断を挙げることができる
- (イ) 代表的な婦人科疾患の治療計画を立てることができる
- (ウ) 産科異常や妊娠合併症の治療計画を立てることができる
- (エ) 分娩の進行の予測ができる

学習方略(1)

- (1) 上級医の指導のもとで入院患者の診療を行う。受け持ち患者数は 10 から 15 人程度とする
- (2) 各種の婦人科疾患手術や帝王切開術の助手を務める
- (3) 上級医の指導のもとで、周術期の管理を行う
- (4) 上級医の指導のもとで週 1 回程度、妊婦健康診査を行う
- (5) 上級医の指導のもとで、婦人科外来の見学および問診を行う
- (6) 毎日の病棟回診で症例提示を行う

学習方略(2) 勉強会・カンファレンス・学会など

- (1) 週 1 回の科内の術前症例検討会・勉強会に出席し、症例提示を行う
- (2) 月 1 回の小児科との合同カンファレンス（周産期カンファレンス）に出席する
- (3) 興味を抱いた疾患・病態について自己学習しローテーション期間中に症例発表を行う
- (4) 上級医の指導のもと、産科婦人科学会・関連学会で症例発表を行う

週間予定（例）※随時、他科コンサルテーションなど

	月	火	水	木	金
午前	婦人科外来	手術	産科外来	手術	手術
午後 1	手術、または 病棟業務	手術、または 病棟業務	検査外来	手術、または 病棟業務	手術、または 病棟業務
午後 2		周産期カンファ レンス (第 1 週)	症例検討会、 病理カンファ レンス		

EV 評価

PG-EPOC による評価方法（研修医⇔指導医）

※研修医は、各分野の研修終了後、速やかにその分野の自己評価を行い、PG-EPOC 評価システムに入力すること